

国際頭痛分類第3版 beta 版 (ICHD-3 β) 日本語版

寿会富永病院 副院長 / 神経内科 部長 / 頭痛センター長 竹島多賀夫
Takao Takeshima

はじめに

頭痛分類は、頭痛医学の根幹をなすものである。頭痛診療を航海に例えると、国際頭痛分類は海図に相当する。ちなみに、「慢性頭痛の診療ガイドライン」はナビゲーターに、頭痛ダイアリーは航海日誌に例えられる。2013年に国際頭痛分類第3版 beta 版 (ICHD-3 β)¹⁾ が公開され、2014年には日本語版²⁾ が公開された(図1)。いわば、頭痛診療のための海図が書きかえられたということである。ICHD-3 β は国際頭痛分類第2版 (ICHD-2)³⁾ からの整合性にも配慮されており、現場に混乱をもたらすことがないように設計されているが、近年の頭痛医学の進歩、知見の蓄積を反映して改訂や追加が行われている。

頭痛は大きく、第1部：一次性頭痛、第2部：二次性頭痛、第3部：有痛性脳神経ニューロパチー、他の顔面痛およびその他の頭痛に分けられ、13の頭痛グループとその他の頭痛性疾患が規定されている(表1)。一次性頭痛とは、他に原因となる疾患がなく頭痛そのものが疾患である頭痛性疾患の総称で、片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛が代表的である。群発頭痛は類縁疾患とともに三叉神経・自律神経性頭痛としてまとめられている。二次性頭痛は頭蓋内疾患や全身疾患など、さまざまな疾患に伴う頭痛が掲載されている。ICHD-2以降、精神疾患による頭痛が二次性頭痛として定義され、診断基準が設けられるようになった。

ICHD-2 および ICHD-3 β の全文 (英語版) は国際

頭痛学会の Web サイトで閲覧できる。ICHD-2 の日本語版は日本頭痛学会の Web サイトで閲覧可能である。ICHD-3 β 日本語版は書籍として刊行されており、2015年度には全文が Web 上で公開される予定である。

ICHD-3 β の使い方

ICHD-3 β には 300 種類以上の頭痛性疾患が掲載されているが、これらすべてを暗記することを前提とはしていない²⁾。診療に際し、必要に応じてその都度、調べるように作成されている。このように使用していくことで、1.1「前兆のない片頭痛」、1.2「前兆のある片頭痛」、2.「緊張型頭痛」の主要なサブタイプ、3.1「群発頭痛」とその他の少数の頭痛に関する診断基準がどのようなものかを知ることができる。他のまれ



図1 国際頭痛分類第3版 beta 版 (ICHD-3 β)
左：英語版 (Cephalalgia 2013)、右：日本語版。